

募集要項

大阪府茨木市は、康成が幼少期から青年期にかけて過ごしたまちです。川端康成青春文学賞は、平成 30（2018）年に茨木市の市制施行 70 周年と康成のノーベル文学賞受賞 50 周年を記念して創設しました。康成が作家を志したのは、ここ、茨木の地。まだ世に出ていない傑作をおまちしています。

募集期間

令和 3 年（2021 年）10 月 31 日まで
※メール・電子フォームは必着、郵送は消印有効

募集内容

日本語で書かれたオリジナルの未発表小説（ショートストーリー）とし、恋愛、ミステリー、ホラー、SF など、ジャンルは不問。若い世代の応募を歓迎し、みずみずしい感性で青春を描いた物語を期待します。

賞及び賞金（予定）

大賞（1 篇）50 万円
優秀賞（1 篇）20 万円
佳作（1 篇）10 万円
奨励賞（1 篇）5 万円
大賞作品は、(株)中央公論新社の月刊『中央公論』に掲載します。（予定）

発表

発表及び表彰式は令和 4 年（2022 年）8 月頃を予定。入賞者に直接通知するほか、茨木市ホームページ等で公表します。

応募規定

1. 日本語で書かれた未発表作品であること。
2. 1 人 2 作品まで。メール、電子フォーム、郵送のいずれかで応募（メール、電子フォームを推奨）。400 字詰原稿用紙換算で 10 枚～30 枚とし、原稿の左下に通し番号を記入。鉛筆書きは不可。パソコン原稿の場合は、A4 判のマス目のない用紙に 30 字 × 40 行・たて書きで印字。データ形式は Word 文書のみ受付（様式は茨木市ホームページからダウンロード可）。
3. 表紙に題名、氏名（ペンネームの場合は本名も併記）、ふりがな、生年月日、年齢、住所、連絡先（電話番号、あればメールアドレス）、公募を知った媒体名（ちらしなど）、パソコン原稿の場合は 400 字詰原稿用紙換算枚数を明記してください。
4. 応募原稿はいかなる場合も返却しません。必要であればあらかじめコピーしておいてください。応募後の原稿の修正はできません。
5. 選考に関するお問い合わせには一切応じられません。
6. 選外の通知はいたしません。
7. 入賞作品の一切の権利は主催者に帰属します。
8. 入賞作品は二次利用（脚本化・漫画化など）する場合があります。
9. 入賞者の氏名・年齢等については、報道機関に提供することがありますのでご了承ください。

応募先

茨木市市民文化振興課「川端康成青春文学賞」係
〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目 8 番 13 号
Mail novel@city.ibaraki.lg.jp
URL <https://www.koubo.co.jp/system/contest/ibarakikawabata2/form/>

選考委員（予定）

羽田圭介

小説家。高校在学中の 2003 年、17 歳の時に「黒冷水」で第 40 回文藝賞を受賞し、デビュー。2015 年、「スクラップ・アンド・ビルド」で芥川賞を受賞。その他の著作に『ワタクシハ』『成功者 K』『5 時過ぎランチ』『ボルシェ太郎』など。

津村記久子

小説家。2005 年、「マンイーター」（単行本化の際「君は永遠にそいつらより若い」に改題）で第 21 回太宰治賞を受賞し、デビュー。2009 年、「ポトスライムの舟」で芥川賞を受賞。2013 年には「給水塔と亀」で第 39 回川端康成文学賞受賞。ほかの受賞歴に、野間文芸新人賞、芸術選奨新人賞、サッカー本大賞など。その他の著作に『ミュージック・プレス・ユー !!』『この世にたやすい仕事はない』『デイス・イズ・ザ・デイ』など。

大野裕之

脚本家・プロデューサー、日本チャップリン協会会長。川端康成ゆかりの茨木高校卒。2014 年、映画『太秦ライムライト』のプロデューサーと脚本を担当。ファンタジア国際映画祭最優秀作品賞、ニューヨーク・アジア映画祭観客賞など国内外 13 の賞を受賞。ほか、サントリー学芸賞受賞など。2019 年全国公開の茨木市制施行 70 周年記念映画『葬式の名人』のプロデューサー・脚本を担当。

茨木市は、大阪府の北部、大阪や京都の市街地の中間地点にあり、豊かな自然と交通の利便性に恵まれたまちです。世界的に貴重なキリシタン遺物をはじめ、古墳、本陣など、歴史を伝える遺産や文化的伝統が今も息づいています。また、多数の大学・高校が集まる本市では、教育委員会、小・中学校が一丸となり、児童生徒の学力向上をきめ細かく支援しています。「一人も見捨てへん」教育実現のための取り組みは、全国から注目を集めており、着実に成果を上げています。

1968 年に日本人初のノーベル文学賞を受賞した川端康成氏の功績を称え、茨木市は「茨木市名誉市民」の称号を贈り、1985 年には市民が川端文学に親しむ場として川端康成文学館を開館しました。

同館では著書、遺品、書簡、原稿や墨書などの、ゆかりの品約 400 点を展示、氏の生誕月である 6 月には「生誕月記念企画展」を開催するほか、川端文学の魅力を様々な視点から紹介する展示や文学講座を行っています。